

# 乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.17 2015.4

## 家族性乳がんの遺伝子検査 4月より当院でもカウンセリング・検査が受けられます！

乳がんの5～10%には遺伝的背景があり、そうした遺伝性の乳がん～正しくは遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)と呼びます～ではBRCA1あるいはBRCA2という遺伝子の異常(変異)があることはこの乳がん高度検診・治療センターNEW-すNo. 2(2014年1月号)でもお知らせしました。このたび、当院でもBRCA1/2遺伝子検査やその前段階としてのカウンセリング体制が整いましたので再度この話題を取り上げます。

まず、この検査の結果が、乳がん患者さんご本人だけでなく血縁者の方にも影響が及ぶ可能性のある大変デリケートな問題を含んでおり、検査を受けるかどうかはあくまで患者さんの自由意思に基づくものであることを最初に強調しておきたいと思えます。

一般に、下の表に掲げたような項目にあてはまる患者さんでは、詳しい遺伝的なリスク評価が必要とされます。

### 遺伝的なリスク評価が必要な対象

- ・若年発症の乳がん
- ・同時性または異時性の同側／両側乳がん
- ・男性乳がん
- ・卵巣がん
- ・トリプルネガティブ乳がん\*
- ・乳がん既往歴+次にあてはまる家族歴
  - 乳がん(50歳以下で診断)
  - 卵巣がん
  - 乳がんまたは膀胱がん(2人以上) など

\*トリプルネガティブ乳がん:エストロゲン受容体、プロゲステロン受容体、HER2がすべて陰性の乳がん。  
(NCCNガイドライン2012年より引用改変)

遺伝子検査は、乳がん患者さん自身を対象とした「発端者向け検査」と、HBOCと判明した患者さんの血縁者が対象になる「血縁者向け検査」とに分けられます。ちなみにこの遺伝子に変異があれば、その変異はこども(次世代)に50%の確率で受け継がれます。当院では遺伝カウンセリングの対応件数にも限りがありますので、当面、対象は発端者のみとさせていただきます。

HBOC診療ではカウンセリングと切っても切り離せない関係にあり、カウンセリングを受けていただいたうえでよく考えていただき検査を受けるかどうか決めてください。どのような検査であっても、検査をうける利益だけでなく不利益の側面がありますが、この遺伝子検査では、利益・不利益のバランスの価値観が個人個人で大きく異なります。担当医や乳がん看護外来などでよく説明を聞かれたうえで、それ以降のカウンセリング、検査と進むかどうか熟考してください。

遺伝カウンセリングは、通常の診察日とは別の日に面談日を設定して実施します。遺伝カウンセリングの結果、遺伝子検査を受けることを希望される方は、同意書を提出のうえ所定の日に採血することになります。

なお、遺伝カウンセリングおよびBRCA1/2遺伝子検査は保険診療ではなく、すべて自費診療となります。

詳細は乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。



市立貝塚病院  
TEL : 072-422-5865

